

<著者と語る・サイエンス読書カフェ 07月23日>

バルセロナで豆腐屋になった

定年後の「一身二生」奮闘記

煮た大豆をすりつぶして豆乳を作り、それに塩化マグネシウム(にがり)を加えて攪拌、凝固させた食品が、豆腐です。著者の清水建宇さんは、新聞社を退職後の2010年、美知子夫人と共にスペイン北東部のバルセロナに移住し、豆腐やがんもどき(飛龍頭)を製造、販売するビジネスを始めました。福沢諭吉のことは、「一身二生」に動かされたといい、まったく豆腐文化のなかった地での需要も開拓でき、生活は軌道に乗りました。美知子さんの病気で事業を知人に引き継ぎ、11年後に日本での生活に戻りますが、豆腐職人としての工夫や試行錯誤、また、テレビ朝日報道番組のコメントーターもつとめたジャーナリストが第二の人生に踏み出すきっかけなど、この新書を手がかりにお話しをうかがい、自由な質疑を進めたいと思います。

日時:2026年07月23日(木)午後6時15分から

場所:東京・大手町、読売新聞本社3階、新聞教室(地下鉄・大手町駅C-3出口)
今回も、会場と、オンラインの両方を使って開催します。

参加費:会場2000円、オンライン1800円

問い合わせ:よみうりカルチャー大手町スクール事務局(03-3642-4301)

このサイトにも、案内があります。

会場受講: <https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202607-18011401.htm>

オンライン受講: <https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202607-18011402.htm>

